

## 2025年度教育活動等に対する学校評価書

2026年5月31日

不二聖心女子学院中学校・高等学校 校長 蒔苗 博道

### 1 3年間（2025～2027）の運営課題と評価

3年間（2022～2024）の運営課題	学校関係者評価委員評価			
(1)宗教教育に根差した全人教育を実践する	A	B	A	A
(2)変化する社会の中で、よりよい社会を創ることに貢献する力を養う	A	B	A	A
(3)創立75周年を目指して、新たな学びの場を創造する	A	B	A	A

評価基準 A：十分に実践や目標を達成している B：ある程度の実践や目標を達成している

C：あまり実践や目標を達成していない D：全く実践や目標を達成していない

### 2 重点目標

- (1) 創立者列聖100年の記念の年にあたり、創立者の精神の原点に立ち返る
- (2) 多様な連携のうちに協働する力を育み、社会につながるオーセンティックな学びを実践する
- (3) 生徒の主体的な学びをさらに推進する

### 3 重点課題

- (1) 宗教教育：教育活動全般および教職員研修が創立者の精神をより一層意識したものとなるよう働きかける
- (2) 学習指導：主体的協働的学習の促進－変化に柔軟に対応する教育
- (3) 進路・キャリア教育：Design Your Future プログラムと foundation, originality, vocation との統合
- (4) 国際交流：他国の文化を尊重し、共により良い世界を築こうとする姿勢や力を育むために、  
本物の（オーセンティックな）体験を多く得られるよう、情報や機会を積極的に提供する
- (5) 生徒指導：時代の変化に即した生徒指導の実践
- (6) 寄宿舎：寄宿舎生活におけるセルフマネジメント力の育成
- (7) 安全対策：未曾有の災害に備え一人ひとりの防災意識を高める

- (8) 入試：学院の将来構想について検討を継続する
- (9) 広報：募集定員確保を目指した広報活動
- (10) 図書：豊かな心と主体的で多様な学びを支える図書館運営を行う
- (11) 学校保健：セルフメディケーション力の育成

重点課題	取り組み	自己評価		学校関係者評価委員の評価	
		評価	学校としての反省・改善策	評価	意見
(1) 宗教教育	<p>○職員宗教研修では、シスターからのご指導により、建学の精神に基づく教育の方向性を深めることができた。</p> <p>○HR 指導や宗教朝礼など日ごろの教育活動に研修の成果が生かされた。</p> <p>○学校が祈りの共同体として歩む働きかけをした。</p> <p>○テレジア会の活動はシスターとの交流会となった。</p>	A	<p>○追悼ミサなどではプロフィールを提示し、職員間で宗教行事の意味を共有したが、キャロルにおいても、分担表だけでなく、プロフィールを示す必要性を感じた。</p> <p>○姉妹校の動きにも注視して、本校らしい宗教教育を充実させていく。</p>	A	<p>○教職員自身が宗教教育の担い手として育成されており、宗教教育を大切にしている姿勢が生徒たちに確実に伝えられている。</p> <p>○座学も重要ですが、それをどれだけ実践できるか？が重要で、自分本位の生徒が多いようにも思います。</p> <p>○朝礼、寄宿舎の夕の祈り、祈りの会など、心静かに祈りすることが生活の一部に取り入れられている点にカトリック教育の一つの意義があるように思います。</p>
(2) 学習指導	<p>○2026年度から祈りの会を11月に、高3祈りの会を7月に実施するために、年間行事予定を調整した。</p> <p>○上智大学田村教授の研修において、生成AIについて学び、授業等での活用が進んでいる。</p> <p>○授業アンケートを実施し、授業改善、授業力向上に努めた。</p> <p>○BLENDを有効に活用し始めた。</p>	A	<p>○教育課程の最適化と総合的な探究の時間の確保</p> <p>○探究活動における指導体制の強化と探究プログラムの高度化</p> <p>○生成AIの教育利用の推進と生徒リテラシー教育の推進</p> <p>○教務のDX推進による教育環境の改善と業務の効率化</p>	A	<p>○授業アンケートのフィードバックを生かし、教員が授業研究に努めている。また、大学との連携授業を通して生徒の知的好奇心を広げる努力が見られる。</p> <p>○生徒の発表、スピーチ、自由研究などから能力の高さ、意識の高さがうかがえ、学習指導の賜物だと思います。</p> <p>○生成AIなど今日的な課題に積極的に取り組んでいることが評価できます。</p>

<p>(3)</p> <p>進路指導・ キャリア教育</p>	<p>○Design Your Future プログラムを実施した。</p> <p>○大学との連携を行った。新たに横浜薬科大学、神奈川歯科大学、日大芸術学部、立命館生命科学部などとの連携により、継続的に多彩なプログラムが展開できた。</p> <p>○大学 4 年生による国立大学進学座談会を実施した。</p> <p>○海外大学説明会では昨年の 2 倍以上の参加者があった。</p> <p>○台湾の大学と指定校制度を締結した。</p>	<p>A</p>	<p>○クローズナビの活用促進</p> <p>○中高大連携を生かした、キャリア教育の一層の充実</p> <p>○進路マニュアルの活用</p> <p>○進路実績のデータベース化と指導への活用</p> <p>○個々の生徒のキャリアを見据えた留学・海外大学進学へのサポート充実</p>	<p>A</p>	<p>○大学との連携プログラムを積極的に進め、キャリア教育は成果をあげている。海外進学の希望者は今後増えていくと思われるので体制づくりが求められる。</p> <p>○少子化の中、魅力的なカリキュラム、教育を打ち出していくことが重要ですが、うまく進められていると思います。</p> <p>○講演などを通じて、ロールモデルとなる卒業生のお話を聞けることは非常に貴重な機会です。</p>
<p>(4)</p> <p>国際交流</p>	<p>○韓国体験学習について、ホームステイ受け入れの義務がない新しい形を 2026 年度実施に向けて構築した。台湾についても検討を始めた。</p> <p>○Sacred Heart Virtual Collaboration Program (VCP)について、参加生徒の活動報告やプログラムトピック選定を実施したことで認知度が高まり、参加者が増加した。</p> <p>○自主団体「Dear World」については、子ども食堂での複数回の英語イベント、キャンディリングや寄付金の贈呈、フィリピンへの物質支援などを行った。その活動が評価され、静岡県の「青少年の顕彰」で表彰された。</p> <p>○国際交流プログラムについては、精査して生徒に紹介し、参加者が増加した。</p> <p>○国連訓練機関 UNITAR からの誘いがあり、来年度のオンラインプログラムを検討している。</p> <p>○模擬国連活動については、校内説明会を実施し、全日本には高 2 高 1 の 2 チームが予選会に</p>	<p>A</p>	<p>○様々な活動が実施され、生徒への情報提供が行われ、興味や関心が高まっている。プログラムを精査し、オーセンティックな教育活動が継続できるよう、検討を続けていく。</p>	<p>A</p>	<p>○日頃の授業や教育活動の中で世界に広く目を向ける機会が工夫され、また実際に体験できる場も多く充実している。</p> <p>○様々なイベントに参加し、積極的に海外との接点を持つようとしていることがよくわかります。</p> <p>○進路の選択肢として、海外大学への進学の希望が増加している点が興味深いです。</p>

	参加した。高1のチームがハンガリー代表として出場した。				
(5) 生徒指導	<p>○生活向上委員や幹事委員が主体となり、校則やマナーについて生徒への呼びかけを実施した。各行事では18歳のプロフィールなどを意識して指導にあたった。</p> <p>○担任会、新任研修、職員研修などで、聖心が大切にしている基本理念について分かち合い、指導方針について共通理解を図った。</p> <p>○生徒の主体性に根ざした校則の変更について、現行の校則を徹底しつつ、実情に合わせた検討を行った。コートの規定の幅を広げたほか、校務システムを利用し届け出の簡素化を行うこととした。</p>	A	<p>○聖心の生徒としての規範意識、マナーの向上、主体性や自主性の向上</p> <p>○校則の見直しの継続</p> <p>○聖心の教員として、生徒・保護者との信頼関係を深めるかわり方の向上</p> <p>○SNS上のトラブルを含むいじめの未然防止、早期発見、早期対応</p>	B	<p>○人を大切にするという根本的な価値に根差した生徒指導が行われている。秋のつどいで出会った生徒も大変感じが良く礼儀正しくマナーが身につけていると思った。</p> <p>○毎年一定数の生徒が退学していくと聞きます。いじめなどの対策についてはもっと踏み込むことが必要かとも思います。</p>
(6) 寄宿舎	<p>○学校と寄宿舎が昼夜(対面)でやり取りすることが難しいことが多く、チャットが有効手段となった。また、外部情報(生地研、学警連)の報告も共有できた。</p> <p>○寄宿舎医務室、コーディネーター、担任団、学校保健室、カウンセラーとの情報共有・連携の強化が進められた。外部支援者との連携も良好であった。</p> <p>○新入生の防災リュックの一括購入を行った。</p> <p>○防災体制班での集合や不審者対応訓練を行った。</p>	A	<p>○生徒の発達段階や社会変化に即した寄宿生活、生徒指導の再検討について、生徒、保護者、職員間で意識格差があり、寄宿生の安全と生活のしやすさをどのようにバランスをとるか、今後も見直しの継続が必要である。</p> <p>○生徒主体の寄宿生活の段階的な構築</p> <p>○社会の変化や法的な正確さを意識した生徒指導</p> <p>○寄宿生活における、ハード面・ソフト面での一層に安全対</p>	B	<p>○寄宿生の割合は年々増え、また家庭と社会の影響も大きく担当される先生方のご苦労されていることと思われるが、良好な連携を築き対応し努力している。</p> <p>○真偽は分かりませんが、相変わらず寄宿生の評判の悪さは聞こえてきます。半数以上を占める以上、入試のところで人間性をみてゆくことや、生活態度などで厳罰があっただけかとも思います。</p> <p>○規則やマナーを、押し付けるのではなく、なぜ必要なのか説明して理解できるように指導することは大変難しい課題であると感じました。</p>

			策強化		
(7) 安全対策	<p>○職員対象に心肺蘇生法の講習(5月)を実施した。全校生徒対象に第1回避難訓練(5月)、応急救護訓練(8月)を実施した。高校1年生対象に防災講話(7月)、中学1年生対象にジュニア防災士講座(11月)を実施した。</p> <p>○静岡県、裾野市、警察署、消防署、自衛隊等の行政関係施設との連絡協議が書面で行われた。</p> <p>○危機管理マニュアルの読み合わせや係別会議を実施し、実情に合っているかを確認した。</p>	A	<p>○危機管理マニュアルが実情とあっているか今後も検討を続ける。</p> <p>○寄宿舎と一体となった所訓練が勤務時間が異なることで難しい。連携方法を検討していく</p> <p>○防災グッズの見直しを検討する。</p>	A	<p>○寄宿舎を持つ学校として安全対策は重要な事項としてとらえ、教職員、生徒ともに意識を高めながら取り組んでいる。</p> <p>○自然災害が多くなっているため、日頃から訓練を重ねることも大切ですが、山林火災なども多いので、自然豊かであるがゆえに火災は心配です。</p> <p>○2025年は北陸や東北でも大きな地震がありました。とくに寄宿舎を抱える学校として災害時の対応策は重要課題であると考えます。</p>
(8) 入試	<p>○学校説明会や Campus week、見学会などを実施し、丁寧な対応を行った。</p> <p>○HP や海外広報で本校を知った帰国生や海外からの問い合わせが増えた。</p> <p>○英検利用入試や総合型選抜入試について検討し、実施した。</p> <p>○高校入試の再導入を決定した。</p>	A	<p>○高校入試導入に伴う諸課題の検討と広報の実施</p> <p>○広報との連携と説明会、見学会の継続的な実施</p> <p>○帰国生等の日本語力向上策の検討</p>	B	<p>○来年度から始まる総合型選抜入試は新たな可能性を持ち、興味深い取り組みと言える。</p> <p>○様々な入試ルートを用意され、広くタレントのある生徒を募集するのは賛成ですが、どのような基準を持たれているのか気になります。</p> <p>○学生募集の厳しさは増していますが、他校の動向を注視しながら毎年工夫を重ねられている点を評価します。</p>
(9) 広報	<p>○小さめのイベントを増やし、静岡県東部の小学校に定期的にチラシを配布するなど、参加しやすいような工夫を行った。</p> <p>○星空観察会やベルナルビュフェ美術館鑑賞会など新たなイベントを追加した。</p> <p>○SingaLife オンライン説明会を実施し、海外からの参加を可能にした。</p> <p>○Instagram の生徒目線の動画投稿や、イベン</p>	A	<p>○各種イベントを継続し、受験生とつながる方法を模索していく。</p> <p>○外部説明会への参加方針を検討し、来校につながるよう厳選していく。</p> <p>○県内・首都圏への広報活動をこれまで以上に戦略的に行って</p>	A	<p>○地域と連携しながらのイベントの企画とともに広く海外広報まで努力されている。不二聖心で教育を受けている生徒自身にふれることが最も有効なであると思う。</p> <p>○インスタ等も使って学校生活の様子も分かり、良い宣伝になると思いますが、もっと海外市場にアプローチしても良いかもしれません。</p> <p>○Instagram も活発に動いており、広報ツー</p>

	<p>トへの生徒の積極的参加を促した。</p> <p>○HP やパンフレットについて内容更新を行った。</p>		<p>いく。</p> <p>○HP の掲載内容の再検討していく。</p>		<p>ルとして有効に活用されているように思います。</p> <p>○寄宿舎体験の体験機会があると良いのでは。入学前に想像できないことが分かり不安感を少なくすることができるのではないか。寄宿舎が強みである一方でウィークポイントでもある。小6の保護者にとって、寄宿は共働きの家庭のニーズに応える場となっている。週末帰宅型の寄宿舎が程よい距離感と親子の関係を良好に保つように思う。</p>
(10) 図書	<p>○総合探究などに役立つ本、学びの助けとなる本を選書した。</p> <p>○外国語科の協力のもと洋書をさらに充実させた。</p> <p>○情報センターとしての役割を果たすため、多角的な利用ができる環境づくりに努めた。</p> <p>○閲覧室の書架や壁に手を加え、居心地の良い環境にした。</p> <p>○自主活動団体による成果物のコーナーを館内のあらゆる場所に設置した。</p> <p>○アンネ・フランクパネル展をきっかけに、生徒の読書の幅と深みを持たせることができた。</p> <p>○静岡県立中央図書館の電子サービスの登録は完了した。電子図書館の導入については検討の結果難しいという結論に達した。</p>	A	<p>○多様な使い方ができる環境づくりを引き続き検討していく。</p> <p>○SDGs ブックガイド、しおり作成、外部コンクール参加など、読書や研究活動を通じて、不二聖心における教育活動に貢献できるような活動を継続していく。</p>	A	<p>○生徒にとって魅力的な資料を整え、訪れやすい場となる工夫をしている。SDG's ブックガイドの発行など生徒の主体性を生かしている。</p> <p>○毎回不二聖心に行く度に、様々なテーマで図書を選別、展示されていて、積極的に動かれている様子がよくわかります。</p> <p>○SDG's Book Guide 第4版の発行は一つの成果です。各目標について不二聖心の取り組みが書かれており、興味深く拝読しました。</p>
(11) 学校保健	<p>○毎月の保健だよりについては、生徒が興味をもつ内容を盛り込み、自己管理について啓発を行った。</p>	A	<p>○メンタルヘルスについて保護者とも情報共有することで協力体制を整え、生徒を支援してき</p>	A	<p>○生徒が依存しすぎることなく、自立し自分で管理できるようになること、他部署、保護者との情報共有、連携をしながらの支援に取り組んでいる。</p>

	<p>○気になる生徒は、早期に担任、寄宿、カウンセラーに共有して対応した。</p> <p>○大きな感染症蔓延はなかった。BLEND を通して、感染状況の把握に努め、迅速に対応できるようにしたい。</p>	<p>たい。</p> <p>○感染症対応について、職員や生徒への周知徹底と、学年閉鎖、オンライン授業などの予防的措置の検討を管理職と迅速に行う。</p>	<p>○今の時代、やはりメンタルに問題を抱える生徒のケアが重要だと思います。いち早く察知してサポートできる体制がある点は安心です。</p> <p>○教職員間、教職員と保護者との連携が必要な分野であると強く感じます。</p>
--	---	--	---